

11月定例会での勝川議員の一般質問

掛川市議会
日本共産党だより

2018.2.3
第3号



〈発行〉
掛川市議会
日本共産党
掛川市長谷 1-1-1
〈連絡先〉
勝川ほこ
電話・FAX
22-1325
ご意見・ご
要望をお
寄せ下さい

住民参加のまちづくり推進にあたって

住民参加のまちづくりに、市は必要な施策を

◆勝川 北門区で起こっている、住民の知られない間に葬儀場建設が進められている事態をどう考えるのか。指導要綱の内容で指導できなければ、事前に地区に知らせるとか、住民に情報を渡していくのは当然ではないのか。条例などの手直しをした後、まちづくり協議会を使って地域の開発を地域で考えていけるように行政としても工夫してほしい。



◇市長 私も全く聞いていない事例。行政側が案件を察知したときには、情報を地域の皆さんにもお知らせしなければいけないと思う。条例は、法律の範囲内での制定になるが、少し時間をもらい検討する。まちづくり協議会や議会に報告する。



北門区には葬祭センター対策協議会が設置されて、地区としての対応が協議されています。

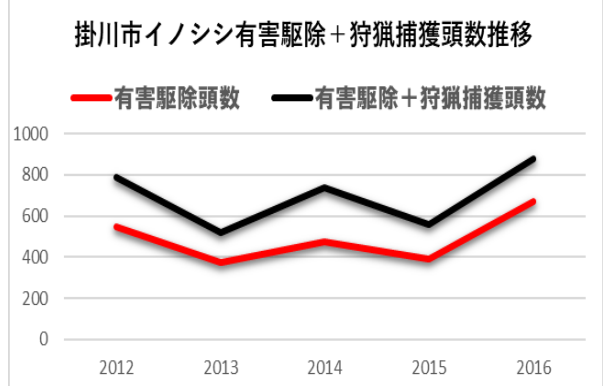
工事の影響に対応できるように家屋調査を先行させるため、取り壊し工事はいったんストップしています。

有害鳥獣対策について

深刻化しているイノシシ被害対し、防御・駆除・有効利用の施策展開を

◆勝川 ここ数年のイノシシ被害と駆除頭数の増加は、街中を除くほとんどの地域に広がっている。

緊急対策を市が責任を持って展開しないとならない。猟友会任せにせず、市に鳥獣被害対策実施隊を設置し、各地域のまちづくり協議会に対策委員会を組織して、みんなを取り組むための組織化を。
ジビエカーを導入しての肉などの有効利用、すみかとなる耕作放棄地対策として、牛の放牧といった手法も検討してはどうか。



◇市長&環境経済部長 市として30年度には、市の職員を中心の実施隊を設立して出前講座や研修会も実施して、地域ぐるみで環境改善、侵入防止、捕獲などの対策を推進していく。土方のまちづくり協議会はモデル事業になっている。方向としては、地域の農業団体、組織、やる気塾、まちづくり協議会の専門部会という形などをとりたい。

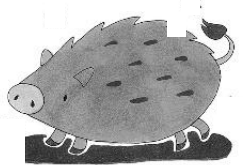
ジビエ肉の活用、捕獲後処理能力増強、放牧などあらゆることの検討をすすめていく。

掛川市イノシシ捕獲頭数地域別状況 (2016年)

① 西郷	160頭	(23.8%)
② 桜木	69頭	(10.3%)
③ 原田	67頭	(10.0%)
④ 倉真	61頭	(9.1%)
⑤ 東山	55頭	(8.2%)
⑥ 東山□	44頭	(6.5%)
⑦ 原谷	43頭	(6.4%)
⑧ 栗本	37頭	(5.5%)
⑨ 上内田	35頭	(5.2%)
大東	35頭	(5.2%)
⑪ 大須賀	32頭	(4.8%)

11月定例会では他党派議員さんのイノシシ問題での一般質問も重なり、来年度に向けて全市の新たな取り組みへの予算付けなど検討されています。

【最近のニュースから】
JA大井川(管内・藤枝・焼津・島田・川根本町)では獣による農作物被害軽減やジビエの利用促進に向けて、ジビエカーの2019年度導入を検討中。



ジビエカーの視察に行きました

11月中旬長野県富士見町の信州富士見高原ファームに3会派合同でジビエカーの視察に行きました。

ジビエカーは捕獲現場に駆けつけて、解体処理して、冷蔵したまま移動できる車です。1台約2000万~2300万円します。

現在の掛川市では、イノシシを殺して埋めているのが実態です。

